

川崎南部病院

Time's

医療法人社団 葵会川崎南部病院

〒210-0822

神奈川県川崎市川崎区田町 2-9-1

TEL 044-277-5511

FAX 044-277-5568

Vol. 1



院長ごあいさつ



川崎南部病院 院長 森脇 稔

1979年 順天堂大学卒業
1980年 済生会川口総合病院勤務
1990年 東部地域病院勤務
1998年 国際親善総合病院
外科部長
2007年 順天堂大学部付属静岡病院
外科教授就任
2013年 川崎南部病院
院長就任

本年4月1日より、川崎南部病院の病院長に就任しました、森脇 稔と申します。

当院は、旧社会保険病院より4月1日に引き継ぎ、「地域の方々のために良質な医療と親しみやすい病院を目指す」という基本理念のもと、一般病棟・医療療養病棟・回復期リハビリテーション病棟が新規オープンし、今後、緩和ケア病棟もオープン予定となっております。

当院は、外来部門を充実させ、多くの救急患者様を受け入れられるよう随時整備している、一般病棟。慢性的な疾患をお持ち方に、長期の入院をご案内させていただく医療療養病棟。脳血管疾患や整形疾患での急性期治療を終え、リハビリが必要な方をご案内させていただく回復期リハビリテーション病棟。今後オープン予定の、終末期のがん患者様を看取る緩和ケア病棟の、一般病棟112床・医療療養病棟114床・回復期リハビリテーション病棟58床・緩和ケア病棟24床の、合計308床の病床を有し、地域の中核を担えるよう努めてまいります。

また、別棟には健康管理室も備え、予防医療にも注力しているため、疾病の診断、治療、その後の療養と、最後まで患者様に寄り添う、完結型の医療を提供させていただく予定です。

今後も職員一同、一丸となって、この病院を地域の皆様のお役に立つための健康医療福祉の総合施設となるように、邁進していく所存であります。

外科・消化器病センター

平成 25 年 7 月より川崎南部病院に外科・消化器病センターを開設いたしました。

消化器疾患は、悪性疾患を含む慢性疾患から急性腹膜炎を代表とする救急疾患まで多くの種類の疾病があります。こうした消化器疾患の診断や治療は、個々の患者様の状態により、検査・処置および治療方針が異なります。特に消化管の癌は罹患率が高く、死因においても上位を占めるものが多いのですが、その病期・進行度や合併している内科疾患のコントロールなどにより、外科手術、化学療法、放射線治療など、治療の選択は変わってきます。

ご存知のように、日本人の死因の第一位は癌となっております。しかし、最近では、癌の研究が進んでおり、化学的に証明された悪い習慣と良い習慣が発表されております。特に、食生活の欧米化のために、大腸がんが急増しており、日本人女性の癌死亡率一位は、大腸癌となっております。また、近年胃癌の死亡率は、著名に減少してきておりますが、検診制度の普及やピロリ菌の除菌によるものと報告されています。このような観点から、外来診療の中においても地域の消化器癌検診や癌予防の教育も行いたいと考えております。患者様が受診して有益であったと思われるような外来診療を心がけております。

そして、医学研究や研修の面では、当院は学会研修認定病院の関連施設でございます。学会での消化器病分野のエキスパートが連携して、随時検討を繰り返しながら、高度かつ専門的で最適な治療の提供をお約束いたします。積極的に消化器癌に対する化学療法、外科手術治療を大学病院（東京慈恵会医科大学・東邦医科大学など）と連携を図り、臨床研究にも多く参加していく予定であり、将来的にはどのような消化器疾患にも対応できるものと自負しております。

最後に、繰り返し記しますが、川崎南部病院、外科・消化器病センターでは消化器病専門の医師団が個々の患者様に最良な治療法を検討して、そのうえで診療を行います。最近様々な分野で医師の専門化が進んでおりますが、当院も、消化器に関する学会の専門医指導医が多数勤務しており、診療技術はもとより十分な知識と経験に基づいて、診療いたしますのでどうぞ安心して受診していただきたいと思います。

消化器センター長・副院長 古川良幸



糖尿病・内分泌内科

皆様は「生活習慣病」をご存知でしょうか？生活習慣病はその名の通り食習慣、運動習慣、喫煙、飲酒等が深く関与している疾患の総称で、2 型糖尿病、高血圧、脂質異常症などが挙げられます。生活習慣病は脳卒中や心臓病、がんとも密接に関連しており、どれも皆様の健康を脅かすものばかりです。

国は平成12年より生活習慣病を減らす取り組みを開始しており、平成14年には健康増進法という法律も制定されました。にもかかわらず生活習慣病は年々増加の一途で、そのなかでも糖尿病患者数の増加は顕著であり、2011年時点で成人国民の4人1人は糖尿病または糖尿病予備軍との調査結果がでています。実は糖尿病は日本だけに限らず世界全体でも増えており、今や地球上に住む人類すべてに関わる問題と言えるでしょう。皆さんの周りにも糖尿病で治療されている方がいらっしゃるのではないのでしょうか？当院には糖尿病専門医3名（常勤医1名，非常勤医2名）と専修医2名が勤務しており、最新ガイドラインを取り入れながら専門的な治療を行っております。また当院は、糖尿病専門医を目指す医師の為の教育施設にも認定されました。

糖尿病治療では「糖尿病教育」が重要と言われていますが、私たちは決して「医師⇒患者」の一方行にならないよう、患者さんたちと良好なコミュニケーションを取りながら糖尿病について学んでいただく事をモットーに治療に取り組んでいます。その一環として、この度、糖尿病患者友の会である「かわさき棟遊会」を設立しました。糖尿病を楽しみながら生活を送っていただく為、ウォークラリーやお料理教室などの情報を発信していこうと考えております。この機会に是非皆様も友の会に参加し、糖尿病ライフを楽しんでみませんか？この他にも私たちはバセドウ病や橋本病などの甲状腺疾患についても治療をおこなっております。ご自身の病気に関してお悩みの事があれば遠慮なくご相談ください。

内科統括部長 吳 昌彦



循環器科

循環器とは、血液を循環させるための心臓や血管系の事をいいます。循環器病とは、この循環器系の異常をきたす病気の事をいいます。例えば動脈硬化が原因で血管の狭窄や閉塞により生じる狭心症や心筋梗塞、下肢の動脈に異常をきたす閉塞性動脈硬化症や下肢の静脈に異常をきたす深部静脈血栓症。また、心臓の弁膜症や心筋の障害などに生ずる心不全、心臓の電気の流れの障害により、心臓のリズムに異常をきたす不整脈などです。

我々、循環器科ではこれらの循環器疾患に対して、専門的な診断および治療を行っております。例えば、今年新規に増設した、冠動脈 CT 検査では、心臓の血管の状態を CT スキャンで評価することにより狭心症の診断をしております。また、最新式のエコー機器により、心臓の機能や弁膜症の有無を検査するだけでなく、下肢や頸動脈の血管の状態の検査もしております。治療に関しては、心臓カテーテル造影装置 2 台を保有しており、狭心症、心筋梗塞、下肢閉塞性動脈硬化症に対するバルーンやステントによる治療の他、不整脈に対するペースメーカー治療なども行っております。さらに、循環器の疾患は患者様の状態が急に变化する事が多く、我々循環器医師は専用の電話機(循環器ホットライン)を 24 時間携帯しており、いつでも、循環器疾患に対して対応できる体制となっております。



また当科では、下肢に対するフットケア外来や心臓リハビリテーションも行っております。

フットケア外来では、下肢閉塞性動脈硬化症や糖尿病の患者様の足の状態を悪化させないため、医師および専門の看護師が診察およびケアを行っております。まず、患者様の足の状態を知るために、足の痛みや知覚・感覚・反射の検査や、血流の検査を行い、それぞれの症状に合わせ、足を洗い、爪切りやタコ・ウオノメの処置等を行っていきます。下肢閉塞性動脈硬化症に対しては、下肢血管に対するカテーテル治療も行っています。

心臓リハビリテーションでは、心臓病の方や心臓カテーテル治療、心臓手術後の患者様に対して行わせていただいております。適切な運動指導を行い、その結果心臓病の再発の予防や生活の質の向上などの効果が得られる治療法です。

現在、フットケア外来ではフットケアナースと協力し、心臓リハビリテーションでは専門のリハビリテーションスタッフやナースと協力し、チーム医療を実践しております。胸や肩、背中に痛みが

ある、脈がおかしい、動悸・息切れがするといった症状をお持ちの方から、特に症状がなくても心臓の病気を心配している方、健康診断で循環器系の異常を指摘された方まで、遠慮なく、まずは当科を受診して頂きたいと思います。

循環器部長 茶谷 健一



呼吸器内科

呼吸器内科とは、「呼吸」に関係する臓器の病気を専門的に診る科となっております。もっとも身近な病気としては、かぜや上気道炎、急性気管支炎、肺炎、気管支喘息などがあります。

当院の呼吸内科が担当する疾患としては、肺炎や結核などの感染症から、喘息をはじめとしたアレルギー疾患。肺がんをはじめとした悪性疾患、慢性閉塞性肺疾患(COPD)といった喫煙関連。さらに、間質性肺疾患や睡眠時無呼吸症候群などと多岐にわたっており、入院を伴う気管支鏡検査・睡眠時無呼吸検査・呼吸機能検査・運動負荷検査等の検査依頼にも対応可能となっております。

現在は、常勤内科医は一名ですが、外来には各分野の第一人者の先生方を招請し、幅広い領域で質の高い診療を行っております。また呼吸器外科とも連携をとり、各疾患、特に肺がんの集学的治療も行っていきたいと考えております。

咳がなかなか良くならない・咳をするとゼーゼーいう。歩いたり坂道を登ったりすると息が切れる。胸が痛い。痰に血が混じっている。寝ているときにいびきがひどい・息が止まっていると言われた。レントゲンで影があると言われた、などの症状が思い当たる方や不安がある方は、是非御来院ください。

呼吸器センター長 松岡 健

耳鼻いんこう科

当科では、主に耳(聞こえが悪い、耳鳴り、中耳炎、耳のかゆみ)、鼻(アレルギー性鼻炎、鼻づまり、副鼻腔炎、鼻出血)、のど(風邪、喉の痛み、声がれ、喉のつかえ)、その他(めまい、顔面神経麻痺、首の腫れ)についての症状を小さなお子様から高齢者の方々まで幅広い受診が可能となっております。

地域の皆様が、より良い治療を受けていただけるよう女性医師2名で地域に密着した医療を目指しております。基本的に一次医療機関として必要な情報を提供し、疾患の程度を見極めて適切な治療を行います。

当科は外来のみを行っておりますので、手術や更なる精密検査などの必要とする患者様には。連携病院へのご紹介をさせていただくこととなります。

耳鼻いんこう科医長 宮本 多加子

小児科

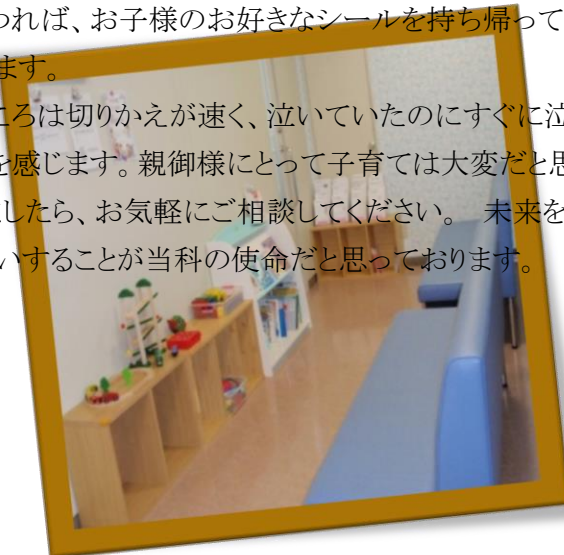


小児科外来の診療は月曜日から金曜日の午前(9:00～11:30)・午後(14:00～16:30)、土曜日の午前(9:00～11:30)に行っております。一般診療の他に予約制で月曜日から金曜日の午後(14:30～15:30)に乳幼児健診・予防接種を、土曜日の午前(9:00～10:30)に乳幼児健診を行っておりますので、詳しい事はお問い合わせください。

検査では血液検査、尿検査、X線検査などの他にCT検査、MRI検査、脳波検査(判読)などもおこなっております。

小児の病気の原因は感染症が大部分ですが、心理的な問題や、家族や周りの人達との関わりが原因となっていることがあります。よく話を聞くことで解決の糸口が見つかることがありますので、丁寧な診療を心がけております。子供にとって病院は決して楽しいところではありません。痛い注射をするところ、苦しいのに口を開けさせられたりするところなど、良いイメージのところではありません。当科では少しでも楽しくなれるよう、待合室には絵本やおもちゃを用意してございます。診療が終われば、お子様のお好きなシールを持ち帰っていただいたりもしています。

子供の良いところは切りかえが速く、泣いていたのにすぐに泣きやんで、遊び始めるところです。子供の活力を感じます。親御様にとって子育ては大変だと思われれます。育児や発達の悩み、心配事などありましたら、お気軽にご相談してください。未来を担う子供たちが元気で大きくなれるよう、お手伝いすることが当科の使命だと思っております。



小児科部長 高石 康子



婦人科

婦人科

当院の婦人科では、女性のライフステージにわたる治療を行っていくことを目指しております。

外来や健診を通じて、女性の体に対する様々な悩み、ご相談を患者様のライフスタイルに合わせた治療を行うことで、最善の治療を選択し、女性の常勤医師が総合的に細やかな診療にあたっております。

治療に関しては、骨盤臓器脱(子宮脱、膀胱瘤、直腸瘤など)に対しては、出血の少ない手術が可能で手術時間も短いため、身体への負担も軽く高齢者にも優しい手術(子宮を温存し開腹しない手術)を行っております。また、当院では乳腺外科外来を行っておりますので、健診で婦人科と併せて乳がんなどの不安やお悩みがある患者様のために、連携した診療を行うことが可能です。

そのほか更年期障害や閉経後骨粗鬆症の治療も行っておりますので、お気軽にご相談して頂けたらと思います。

より、専門的治療が必要になる悪性の疾病などに対しては連携も緊密に行っており、他院へのご紹介も速やかに行えますので安心して受診いただけます。

婦人科部長 西川 美名子



整形外科

当院の整形外科では地域に密着した急性期病院と回復期リハビリテーション病院として皆様により良い医療の提供を行える体制を整えております。

高齢化社会の構造変化に伴って、骨・関節・脊椎の外傷や変性疾患は増加してきております。そのような状況で当科の役割も大きいと考えております。

当科では「外傷外科」と「変性疾患」の2つを大きな柱としており、整形外科専門医の資格を持つ常勤医と非常勤医師2名で診療を行っております。対象となる疾患は骨折治療、脊椎疾患、変形性関節症、骨粗鬆症など多岐にわたります。骨折の治療においては、手術後早い段階でのリハビリを取り入れ、早期社会復帰を目標としており、脊椎疾患に関しては、各種ブロック注射などの保存的治療と合わせ、手術の必要な場合は積極的な治療を行っております。

また、骨粗鬆症の治療に対しては、薬物治療に合わせて運動療法などの治療も充実させております。他院との連携も緊密に図っておりますので、手術後など近隣の利用機関への通院などに関してもご相談いただければと思います。

整形外科部長 本田 雅則



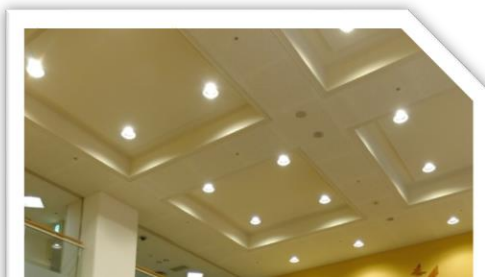
精神科・心療内科

昨今、日本の社会環境は一昔前に比べて慌ただしく、忙しくなったというのか、大分変ってきたのではないかと感じることがあります。その影響からか、人々の生活もかなり変容してきているのかもしれません。

最近、厚生労働省が脳卒中や糖尿病などの 4 大疾病に精神疾患を加えて5大疾病にする方針を固めました。統計的な詳細は除きますが、一昔前とはかなり疾病の様相も異なってきております。それが成熟した社会においての到達点だと言ってしまうまでもですが、なかなか考えさせられるものがあります。

精神科や心療内科はかつて、敷居が高いと思われていましたが、最近はどうでしょうか。そこに含まれる疾病も、昔はこころの病と片付けられていたところもありますが、研究が進んだこともあり、検査方法や治療も少しずつ進歩してきています。ただ、数値や客観的指標で表すことができない部分も未だに多くあり、これは個人の素因や家庭環境、環境に対するストレス耐性など様々含まれます。これらを総合的に踏まえて加療した場合でも、なかなか完治とまではいかないことも多く、当科の場合、寛解や回復と言った言葉を用いています。当科のもう一つの役割としては社会復帰の援助があげられます。一定程度の寛解後は、社会との関わりを持てるように、ソーシャルワーカー等のスタッフや市区町村の福祉などを交え社会生活上の助力をすることもあります。

治療にしても社会復帰にしても、当科の場合、一朝一夕にはいかないことも多く、今後さらに社会環境や人口動態が変わっていけば、様々な点で熟慮する場面に遭遇すると考えられますが、できる限りそれらに合わせて柔軟に対応していければと思っております。



精神科・心療内科部長 清水 勇人

脳神経外科

当科では脳血管障害、脳腫瘍などの早期発見、予防的治療を行っており、脳血管障害、頭部外傷などの緊急疾患に対しても積極的な治療を心がけております。

脳及び脊髄などの中枢神経の疾患の治療を行います。

対象となる疾患は

- 脳血管障害 : クモ膜下出血、脳出血、脳梗塞
- 脳腫瘍 : 神経膠腫、髄膜腫、神経鞘腫など
- 頭部外傷 : 急性硬膜下出血、脳挫傷、慢性硬膜下出血、
- 脊髄・脊椎疾患 : 頸椎症、脊柱管狭窄症、脊髄腫瘍など
- 機能的瀬陰茎外科: 三叉神経痛、顔面ケイレン
- 突発性正常圧水頭症
- 脳脊髄液減少症

神経症状の多くは、ある日突然、頭痛、めまい、しびれ、認知症、痙攣、片麻痺、歩行障害、意識障害、などとして現れます。このような症状は、脳腫瘍や脳血管障害（クモ膜下出血、脳内出血、脳梗塞等）などの脳の病気の原因である場合があります。

特に多い症状が頭痛で、頭痛はありふれた病気ですが、一部には放っておくと命に係わる「こわい頭痛」があります。日本人の3～4人に1人（約3,000万人）が「頭痛持ち」であると言われており、そのうち2,200万人が緊張性頭痛、840万人が片（偏）頭痛、1万人が群発頭痛と言われています。「くも膜下出血」、「脳腫瘍」による頭痛は、毎年3万人に発生します。日常生活に支障ある頭痛を、世界中で最低40%の人が経験します。

《危険な兆候としては》

- ・今までに経験したことがないような頭痛
- ・高齢者の初発頭痛
- ・持続進行性の頭痛
- ・神経症状（麻痺、複視）精神症状、てんかんなどを伴う頭痛
- ・未明、早朝からの頭痛など

このような症状が出現した場合にはCT、MRIなどの精密検査が必要ですので、早期の



受診をお勧めします。

脳神経外科部長 望月 俊宏



健康管理センター



近年の科学技術も伴って、医療技術も診断から治療手段までめざましい発展を遂げている事は、皆さんもニュースなどでご存知でしょう。

しかしながら、生活習慣病自体は診断技術が向上したからだけでなく、食事、運動、嗜好、睡眠時間、その他の原因もあり、むしろ年々増えてしまっています。

我が国の年間の医療費も30兆円を超えてからも増え続けているのです。

だからこそ、その生活習慣病の予備軍である前段階で早期発見をして予防することこそが、重要な解決策であると考えられています。その意味で、未だ特に症状のない段階で健康診断を多くの人が受けて頂く事が肝心です。その大事な役目を担っているのが、この健康管理センターです。皆さん、定期的に健康診断を受けましょう。

川崎南部病院副院長 熊丸 裕也





健康管理センターご案内

皆様の健康を守り、病気の予防と早期発見に全力を注いでいる場所……それが当病院の健康管理センターです。

年々増加している生活習慣病、これは食事、運動不足、喫煙、飲酒などが問題となって招く病気の事を言いますが、日本人の3分の2近くが生活習慣病が原因で亡くなっている事をご存知ですか？子供達も例外ではありません。予防には生活習慣の改善が必要不可欠ですが、健康診断を御利用頂いている方々から「食事は何を気を付けたら良いの？」「菓飲まないと駄目かな？」「どうしたら禁煙出来るの？」といった御質問や御相談は多くあります。気になるけれど、どうしたら良いのか分からない……そんな時は是非、当センターを御利用下さい。様々な分野の専門医をはじめ、スタッフ全員一丸となって健康への近道を御案内致します。

また、日帰り人間ドックや、職業病健診、予防接種など幅広く実施しておりますので、お気軽にお問い合わせ下さい。

受付時間は平日 午前8時30分～10時30分・午後13時30分～15時（午後は火、木、金のみ）・第1、3土曜日は午前8時30分～10時30分となっております。

【ご好評頂いている事ベスト4】

- ① 病院と併設している為、健康診断で異常があった場合は即座に外来受診が可能です。
- ② 生活習慣病予防の為に当日の採血結果をもとに、健康相談を希望者には無料で行っております。もちろん特定保健指導もお引き受け致します。
- ③ 毎週木曜日の午後はレディースデー。気兼ねなく、健診をお受け頂けます。
- ④ バスで巡回健診も行っております。人数、健診場所など、担当者まで御相談下さい。

健診結果が受健者様に送付されるまでが私達の務めです。「会社の指定先だから」とか「家から近いから」ではなく、「健康診断なら川崎南部病院健康管理センターが良いよね」と思って頂ける様な施設を目指して邁進して参りますので、どうぞ宜しく御願い申し上げます。

健康管理センター 看護師 小野睦美



介護老人保健施設 葵の園・川崎南部

井上 晃宏 施設長 より ご挨拶

本年 7 月より介護老人保健施設 葵の園・川崎南部の施設長に着任しました井上晃宏です。

当施設は、入所介護 100 名、通所介護（ディケア）40 名の定員の施設です。入所・通所の方々のお力になれるよう、医師・看護師・リハビリ専門職（理学療法士、作業療法士）、薬剤師、介護士、管理栄養士、ケアマネジャー、相談員、往診の歯科医師、その他の事務職が力を合わせて、明るく、暖かい施設を作っていきたいと考えております。また、隣接の川崎南部病院とは地下道でもつながっており、密接な関係と連携を取り、地域に貢献できる施設を目指してまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

介護老人保健施設とリハビリテーション

介護老人保健施設とは、介護保険上、可能な限り居宅における生活への復帰・継続を目標に置いて、入浴・排泄・食事等の介護、相談及び援助、リハビリや医療等を通して、入所・通所の利用者様がその有する能力に応じ自立した日常生活を営むことが出来るようにする事を目指した施設とされています。

他の介護施設との違いは、リハビリスタッフや看護師、医師等の配置基準が多く、在宅復帰を目標に置いているため、入所期間は他の介護施設と違い終身制ではないこと等が特徴であり、呼称としてリハビリテーション施設と呼ばれることもあります。

では、リハビリとは何でしょうか？リハビリテーションの語源はラテン語で「リ(再び)+ ハビリテーション(適した)」にあるとされています。すなわち「再び適した状態に戻る」という意味を持ちます。分かりやすく言うと、病気や怪我が原因で身体や精神に障害が生じた場合、今まで出来ていたことが出来なくなってしまうことです。出来なくなってしまったことを、再び出来るようにしていく事が広い意味での「リハビリテーション」と言えます。心臓、呼吸器管などの機能は2週間寝ていると30%低下すると言われています。逆に起きたり座ったりすることが機能の低下を防ぐという事にもなり、個別訓練・運動を行うことだけがリハビリではありません。日中にしっかり離床して過ごす、レクリエーションに参加したり、他のご利用者や面会に来られたご家族様と楽しく談話すること、施設内で生活を営んでいく事も「リハビリ」と言えます。

リハビリテーション施設として、現在出来ている事が継続的に出来る事、出来なくなってしまった事が再び出来るように、写真の様な園芸活動等も行い、トマトやきゅうり、なすなど育てています。施設職員が協力し取り組み、利用者様が多くの時間を笑顔で過ごせる施設を目指していきたいと思っています。

リハビリテーション科 理学療法士 篠崎 充

